

白根北中学校
学校だより

教育目標
自立 友愛 勇気



天知る 地知る 我知る

中国の古い歴史書に、「天知る 地知る 我知る」という言葉があります。誰も見ていないと思っても、天が知っている。地も知っている。何より、自分自身が一番よく知っているという意味です。

とかく私たちは誰も見ていない場面で自分を律することが難しいものです。私は早朝、空が真っ暗でも車もいな中でウォーキングをすることがあります。左は赤信号で立ち止まった場面での心の中の声です。

A 青信号になるまで待とう

B 誰もいないから渡ってしまえ

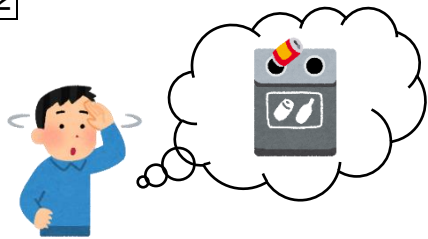
こんなことありませんか？

— 飲み終わった空き缶 編 —

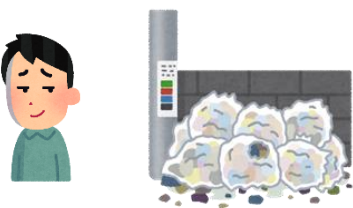
1



2



3



4



この場面こそ、自分自身に判断が

任される瞬間といえます。私が中学

3年生で自転車通学をしていた頃、

卒業式の1週間前に1度だけ自宅

まで100mの地点でノーヘルにな

ったことがあります。それが何故

だか、格好いいと感じていたことを

覚えています。それまでは、1度も

ノーヘルをしたことはありません。

1度だけ、ほんの100mの過去が私にとって「毎日ヘルメットを着用した」という誇りから「1度だけ、ノーヘルになってしまった」という過ちに書き換えてしまいました。

まさに、「我知る」です。

◆ 割れ窓理論 ◆

さて、『割れ窓理論』という考えが

あります。身の周りの小さな乱れを

早期に治めることで大きな乱れを

抑止できるというもの。左のような

場面で飲み終わった空き缶を入れる

ゴミ箱を探しても近くに見当たり

ません。そのせいか足元にはゴミが散乱しています。空き缶だって同じように捨ててしまっても構わないだろう…。という思考です。

でもこれは、逆にとらえることも

できます。つまり身の周りの環境が

整っていれば1人1人が気をつけ

気持ち良い環境を維持することが

できるともいえます。

私たちが使う学校は公共施設と

いいです。代々の先輩が大切に使い

災害時には地域の方の避難所にも

なります。私たちには大切に使い、

引き継いでいく責任があります。

◆臨時全校集会をしました◆

最近、校内のあちこちで、器物のいたずらや破損が続いていました。学年によっては学年集会を開いて生徒に呼びかけたりアンケートで感じたことを書いたりしてもらいました。

中には危険を伴う場所もあったため、校内で修理可能なものは即時対応してきました。修理しているとそばを通った生徒たちから、「すみません」「大変ですね」「ありがとうございます」とたくさん声をかけて

もらいます。時には簡単なお手伝いまでしてくれる人もいます。しかし8日(月)に3階男子トイレの壁の破損が見つかりました。

このトイレは今春、新しく直してもらったばかりです。避難所として利用できるように、バリアフリーで車いすの方も入りやすい設計です。白根北中学校が長年、教育委員会に改修の要望を出し続けて、ようやく

実現した待ちに待ったトイレです。

それまでの先輩方は古く使い辛いトイレを大切に使用していました。

もちろん古い、新しいという問題ではありません。学校という公共の施設の利用にはルールとマナーが必要です。普段の学校生活ではそのことも併せて学んでいるのです。

このことについて、9日(火)に臨時の全校集会を設け、次のような話をしました。(以下、抜粋)

これだけの人数が毎日生活している中で、どんなに丁寧に使っても物は壊れます。これまでも、何かの拍子で壊してしまったり、ふざけて壊してしまったりしたことがあり

ましたが、勇気をもって、きちんと名乗り出してくれることがほとんどでした。「後始末」がきちんとできた失敗です。きつと、次に活かされる失敗です。今回、こうして集まってもらったのは、誰がやったか分から

ない破損が他にも多数続いているからです。

想像してみてください。今までの先輩たちが大切に使い、これからの後輩たちが使っていく校舎を壊しても知らん顔をして逃げることは成功と呼べますか。これこそ大失敗ではないですか。自分が嫌な思いをし

たくないからきまりやマナーを守っている大多数の人たちが嫌な思い、不便な思いをしていることに考えが至らないことがとても残念です。失敗したり、良くないことをしてしまったりしたら後始末する。できない人の将来が心配です。

先日新聞報道であったように市内の中学生が公園の施設の破壊行為で逮捕されました。このように学校外でこのような行為をすれば警察に逮捕されるほど重大なことです。学校も地域の大切な公共施設です。災害時には、避難所にもなる

貸してください。同じことが新たに起こらないように。皆さんの正義の眼が間違った行動を防ぎます。

その一方で、学校はお互いを信頼することも学ぶ場です。失敗したと感じている人は、きちんと申し出てくれることを願っています。(以上)

教育の目的は主に人格の完成を目指すこととされています。決して中学校3年間だけで成し得るものではありません。中学校は皆さんの長い人生のわずか3年しか関わることができません。中学校を卒業したらそれぞれの進路に進むことになります。皆さん1人1人が、これからの地域や社会、そして、日本と世界を創っていくのです。今はそのすぐ直前に立っているのです。

令和7年12月10日(水)

令和7年度 臨時号

文責 校長 山口 靖博